

令和6年度 医療従事者の負担軽減計画

対象	分類		現状・問題点	対応方針	具体的な計画	目標達成
医療従事者	(イ) 外来診療時間の短縮、地域の他の保険医療機関との連携などの外来縮小の取組	外来診療時間の短縮	患者数の減少による業務負担の軽減と予約制の拡大	紹介患者や予約患者を重視していく。	逆紹介の促進。 予約制の適用拡大を検討する。	実施済み (令和6年度も継続)
		地域の他の保険医療機関との連携	紹介受診重点医療機関への移行	令和5年8月に指定済み。	安定的な治療はかかりつけクリニックへ任せ患者数の減少を図りながら、紹介患者等への高度な治療を担うよう目指す。	実施済み (令和6年度も継続)
	(ロ) 院内保育所の設置(夜間帯の保育や病児保育の実施が含まれることが望ましい)	夜間帯の保育の実施	月4回程度実施	継続して実施する。	感染症対策と保育士の人員数から現状の回数で継続中。追加要望あれば検討する。	実施済み (令和6年度も継続)
		病児保育の実施	病児保育の実施計画は中断している	実施に向け計画再開したい。	設備整備、人員確保、運用手順の整備を行い設置許可申請を行う。	実施準備中 (令和6年度内目処)
	(ハ) 医師事務作業補助者の配置による医師の事務作業の負担軽減		医師事務作業補助者の対応拡大	順次拡大を行っていく。	医師事務作業補助者の配置により医師の診療業務等の負担が減少し作業効率が向上することにより診療業務従事時間の短縮を図る。	順次拡大 (令和6年度も継続)
	(ニ) 医師の時間外・休日・深夜の対応についての負担軽減及び処遇改善		更なるタスクシフトの推進が必要	各職種で新たな取組みを模索する。	各職種にて引き続き協力体制の強化について検討継続する。	実施中(検討継続中) (令和6年度も継続)

<p>(ホ) 特定行為研修修了者の複数名の配置及び活用による医師の負担軽減</p>		<p>更なる特定行為研修履修への取り組み</p>	<p>特定行為研修履修者を増加させる。</p>	<p>今期2名の研修実施を予定している。</p>	<p>実施中 (令和7年3月まで)</p>
<p>(ヘ) 院内助産又は助産師外来の開設による医師の負担軽減</p>		<p>助産師外来ではないが妊産褥婦の相談等に対応している。</p>	<p>継続</p>	<p>不調者等からの電話相談に助産師が24時間対応し医師へのオンコールが必要かの判断を行っている。</p>	<p>実施済み (令和6年度も継続)</p>
<p>(ト) 看護補助者の配置による看護職員の負担軽減</p>		<p>看護補助者の確保が困難</p>	<p>多様な勤務人材により人員の確保を図りたい。</p>	<p>高齢者、外国人技能実習生、障害者等の採用による人材確保を行う。</p>	<p>実施済み (令和6年度も継続)</p>